

(様式第 10)

神大医総第 72 号  
平成 26 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

管理者名 神戸大学医学部附属病院長  
藤澤 正人 (印)

神戸大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
氏 名	国立大学法人神戸大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

神戸大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒650-0017 神戸市中央区楠町 7 丁目 5-2	電話 (078) 382-5111
-----------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科 2 腎臓内科 3 呼吸器内科 4 消化器内科 5 神経内科 6 血液内科 7 感染症内科	
診療実績 糖尿病内分泌内科、腫瘍・血液内科	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 小児外科 3 形成外科 4 美容外科	
診療実績 食道・胃腸外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、耳鼻いんこう頭頸部外科	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科
⑦産婦人科	8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科
13放射線診断科	14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科 2 矯正歯科 3 4 5 6 7						
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 放射線腫瘍科	2 病理診断科	3 リハビリテーション科
----------	---------	--------------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
46床	0床	0床	0床	884床	930床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	293人	333人	613.9人	看 護 補 助 者	59人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	7人	21人	15.1人	理 学 療 法 士	17人	臨 床 検 査 技 師	67人
薬 剤 師	67人	7人	74人	作 業 療 法 士	6人	検 査 衛 生 検 査 技 師	7人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	12人	そ の 他	0人
助 産 師	30人	1人	31人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	854人	32人	879.4人	臨 床 工 学 技 士	32人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	5人
准 看 護 師	0人	1人	0.7人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	35人
歯 科 衛 生 士	3人	3人	6人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	259人
管 理 栄 養 士	5人	8人	13人	診 療 放 射 線 技 師	49人	そ の 他 の 職 員	11人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	43人	眼 科 専 門 医	11人
外 科 専 門 医	54人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	14人
精 神 科 専 門 医	11人	放 射 線 科 専 門 医	29人
小 児 科 専 門 医	25人	脳 神 経 外 科 専 門 医	16人
皮 膚 科 専 門 医	13人	整 形 外 科 専 門 医	30人
泌 尿 器 科 専 門 医	19人	麻 酔 科 専 門 医	16人
産 婦 人 科 専 門 医	17人	救 急 科 専 門 医	8人
		合 計	306人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	744.5人	13.5人	758人
1日当たり平均外来患者数	1,268人	61.8人	1,329.8人
1日当たり平均調剤数			1,566.6 剤
必要医師数			157人
必要歯科医師数			6人
必要薬剤師数			26人
必要(准)看護師数			429人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

## 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	m <sup>2</sup> 653	鉄筋コンクリート	病床数	36床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	55m <sup>2</sup>	病床数 5 床 (クラス100)		
			643.39m <sup>2</sup>	病床数 57 床 (クラス100以外)		
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	51.24m <sup>2</sup>			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	58m <sup>2</sup>		(主な設備) 自動臨床化学分析装置			
細菌検査室	73m <sup>2</sup>		(主な設備) 細胞分析計, 自動微生物同定感受性装置			
病理検査室	247m <sup>2</sup>		(主な設備) クリオスタット, ウルトラミクローム, 染色装置			
病理解剖室	67m <sup>2</sup>		(主な設備) 解剖台, オートクレーブ, 写真撮影機			
研究室	430m <sup>2</sup>		(主な設備)			
講義室	1,193m <sup>2</sup>		室数	6 室	収容定員 計952人 (各室 252,120,120,315,100,45)	
図書室	2,145m <sup>2</sup>		室数	1 室	蔵書数 15万冊程度	

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

## 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	63.2%	逆紹介率	71.5%
算出根拠	A: 紹介患者の数	17150人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	19889人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	438人	
	D: 初診の患者の数	27808人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	肝腫瘍に対する腹腔鏡(補助)下肝切除	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下肝切除術は、腹腔鏡を用いることにより、従来の開腹による肝切除術よりも低侵襲の手術を行うことができるものである。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要 手術支援ロボット(da Vinci)を用いた腹腔鏡下腎部分切除術は、低侵襲であり、癌の根治性、腎機能温存について良好な結果が得られるものである。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	120人	・膿疱性乾癬	3人
・多発性硬化症	78人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・重症筋無力症	89人	・原発性胆汁性肝硬変	295人
・全身性エリテマトーデス	328人	・重症急性膵炎	34人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	130人
・再生不良性貧血	25人	・混合性結合組織病	100人
・サルコイドーシス	63人	・原発性免疫不全症候群	16人
・筋萎縮性側索硬化症	25人	・特発性間質性肺炎	51人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	239人	・網膜色素変性症	50人
・特発性血小板減少性紫斑病	54人	・プリオン病	2人
・結節性動脈周囲炎	59人	・肺動脈性肺高血圧症	154人
・潰瘍性大腸炎	91人	・神経線維腫症	47人
・大動脈炎症候群	46人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	21人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	5人
・天疱瘡	32人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	66人
・脊髄小脳変性症	149人	・ライソゾーム病	7人
・クローン病	44人	・副腎白質ジストロフィー	4人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	6人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	18人	・脊髄性筋萎縮症	16人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	108人	・球脊髄性筋萎縮症	10人
・アミロイドーシス	8人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	66人
・後縦靭帯骨化症	87人	・肥大型心筋症	23人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	18人	・ミトコンドリア病	21人
・ウェゲナー肉芽腫症	15人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	13人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	135人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	6人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	38人	・黄色靭帯骨化症	6人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	406人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・患者サポート体制充実加算
・歯科外来診療環境体制加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科診療特別対応連携加算	・ハイリスク妊婦管理加算
・特定機能病院入院基本料(一般7:1、精神13:1)	・ハイリスク分娩管理加算
・臨床研修病院入院診療加算	・退院調整加算
・救急医療管理加算	・新生児特定集中治療室退院調整加算1、2、3
・超急性期脳卒中加算	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・救急搬送患者地域連携受入加算
・診療録管理体制加算2	・総合評価加算
・急性期看護補助体制加算(50:1)	・呼吸ケアチーム加算
・看護職員夜間配置加算	・病棟薬剤業務実施加算
・看護補助加算2	・データ提出加算
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料4
・重症者等療養環境特別加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・無菌治療室管理加算1、2	・新生児治療回復室入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・小児入院医療管理料2
・精神科応急入院施設管理加算	以上
・精神病棟入院時医学管理加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・がん診療連携拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・感染防止対策地域連携加算	

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・遺伝カウンセリング加算
・心臓ペースメーカー指導管理加算(植込型除細動器移行加算)	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・高度難聴指導管理料	・植込型心電図検査
・糖尿病合併症管理料	・時間内歩行試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・胎児心エコー法
・がん患者指導管理料1、2、3	・ヘッドアップティルト試験
・外来緩和ケア管理料	・人工膵臓
・移植後患者指導管理料(臓器・造血幹細胞)	・皮下連続式グルコース測定
・糖尿病透析予防指導管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・院内トリアージ実施料	・脳磁図
・夜間休日救急搬送医学管理料	・神経学的検査
・外来放射線照射診療料	・ロービジョン検査判断料
・ニコチン依存症管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・がん治療連携計画策定料	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん治療連携管理料	・内服・点滴誘発試験
・認知症専門診断管理料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算2
・薬剤管理指導料	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・医療機器安全管理料1、2	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料(歯科)	・冠動脈CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・心臓MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・外来化学療法加算1
・HPV核酸検出	・無菌製剤処理料
・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・検体検査管理加算(IV)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)

続く

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、2
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・がん患者リハビリテーション料	・経皮的冠動脈形成術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・精神科作業療法	・経皮的冠動脈ステント留置術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・経皮的中隔心筋焼灼術
・医療保護入院等診療料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・植込型心電図記録計移植術及び植型心電図記録計摘出術
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・透析液水質確保加算1	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術
・磁気による膀胱等刺激法	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・一酸化窒素吸入療法	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・CAD/CAM冠	・補助人工心臓
・歯科技工加算	・経皮的大動脈遮断術
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・ダメージコントロール手術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・体外衝撃波胆石破砕術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・腹腔鏡下肝切除術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・生体部分肝移植術
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・同種死体肝移植術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)&及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・体外衝撃波膵石破砕術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・網膜再建術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・内視鏡下鼻・腹鼻腔手術Ⅴ(拡大副鼻腔手術)	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・同種死体腎移植術

続く

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・生体腎移植術	
・膀胱水圧拡張術	
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	
・人工尿道括約筋植込・置換術	
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	
・輸血管理料 I	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・内視鏡手術用支援機器加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・麻酔管理料(I)、(II)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・定位放射線治療	
・保険医療機関間の連携による病理診断	
・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製	
・病理診断管理加算	
・クラウン・ブリッジ維持管理料	
・歯科矯正診断料	
・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	
	以上

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・画像支援ナビゲーション手術	・
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	・
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・超音波骨折治療法	・
・眼底3次元画像解析	・
・内視鏡下小切開泌尿器手術	・
・画像支援ナビゲーションシステムによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	・
・腋窩リンパ節郭清術の実施前におけるセンチネルリンパ節の同定及び生検	・
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定及び転移の検索	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー血管形成用カテーテルによるもの)	・
・遺伝学的検査(色素性乾皮症)	・
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・画像等手術支援加算	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	婦人科 1回/週 呼吸器内科・外科 1回/週 乳腺外科 1回/週 肝胆膵外科・消化器内科 1回/月 腎臓内科 2回/月 内分泌外科(甲状腺) 1回/月 血液内科 1回/月
剖検の状況	剖検症例数 35 例 / 剖部検率 12.9%

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
自動化による術中高速組織診断のための新型免疫組織染色装置の開発	伊藤 智雄	病理診断科	2,419,117	補 委 公益財団法人あきた企業活性化センター
頭頸部癌に対する術後化学放射線療法を中心とする集学的治療の開発	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	500,000	補 委 独立行政法人国立がん研究センター
小児がんの標準治療確立のための臨床試験デザイン	吉村 健一	臨床研究推進センター	500,000	補 委 独立行政法人国立がん研究センター
微小血管吻合術後血栓形成の危険因子解析に関する多施設共同研究	橋川 和信	形成外科	500,000	補 委 独立行政法人国立がん研究センター
頭頸部癌に対する術後化学放射線療法の開発	清田 尚臣	腫瘍・血液内科	500,000	補 委 独立行政法人国立がん研究センター
認知症用の炎症PETプローブの臨床開発	山本 泰司	神経科精神科	1,000,000	補 委 公益財団法人先端医療振興財団
骨を要とする多臓器恒常性維持機構の解明	片山 義雄	血液内科	23,530,000	補 委 独立行政法人科学技術振興機構
アルベカシンのデュシェンヌ型筋ジストロフィー患者に対する安全性、ナンセンス変異のリードスルー作用に基づく有効性の検討を目的としたプラセボ対照無作為化試験	竹島 泰弘	小児科学分野こども急性疾患学	85,226,000	補 委 社団法人日本医師会 治験促進センター
治験の実施に関する研究[アルベカシン硫酸塩]	竹島 泰弘	小児科学分野こども急性疾患学	1,800,000	補 委 社団法人日本医師会 治験促進センター
心筋保護を考慮した新しい急性心不全治療薬としてのエプレレノンの有効性を検討する臨床試験(無作為化プラセボ対照二重盲検比較試験)	平田 健一	循環器内科	250,000	補 委 社団法人日本医師会 治験促進センター
筋ジストロフィーおよび関連疾患の診断・治療開発を目指した基盤研究	戸田 達史	神経内科	1,000,000	補 委 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
筋ジストロフィーの治験拠点整備、包括的診療ガイドラインの研究	竹島 泰弘	小児科学分野こども急性疾患学	1,000,000	補 委 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
神経変性疾患iPS細胞由来疾患材料を用いた遺伝学的解析	戸田 達史	神経内科	13,871,000	補 委 独立行政法人科学技術振興機構
骨を要とする多臓器恒常性維持機構の解明	片山 義雄	血液内科	23,530,000	補 委 独立行政法人科学技術振興機構
GTP適合脂肪組織採取に関するデータ収集、SOP作成およびSOP遵守採取の実施	一瀬 晃洋	形成外科	13,000,000	補 委 独立行政法人医薬基盤研究所
生命医学イノベーション創出リーダ者養成	東 健	消化器内科	49,130,000	補 委 文部科学省
医師・コメディカル統合的人材育成拠点形成	藤澤 正人	泌尿器科	42,808,917	補 委 文部科学省
7大学連携先端がん教育基盤創造プラン	南 博信	腫瘍・血液内科	28,371,000	補 委 文部科学省
関西ライフイノベーション戦略推進地域	東 健	消化器内科	48,229,173	補 委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
経皮的肝灌流化学療法(PIHP)を行う医療機器システムの開発	具 英成	肝胆膵外科	15,400,000	補 委 文部科学省
認知症用の炎症PETプローブの臨床開発(認知症鑑別精査のための認知機能検査の項目設定と実施)	山本 泰司	神経科精神科	1,000,000	補 委 文部科学省
メタボローム解析による機能的食物繊維の作用機序解明とその臨床応用に向けた食品開発	吉田 優	消化器内科	63,000,000	補 委 農林水産省
がん放射線・粒子線治療用体内吸収性スプレーの開発	福本 巧	肝胆膵外科	14,837,541	補 委 公益財団法人新産業創造研究機構
自動化による術中高速組織診断のための新型免疫組織染色装置の開発	伊藤 智雄	病理診断科	2,476,316	補 委 公益財団法人あきた企業活性化センター
消化器用レーザーラマン分光診断・治療支援システムの実用化	東 健	消化器内科	6,500,000	補 委 独立行政法人科学技術振興機構
次世代シーケンサーを用いた孤発性の神経難病の発症機構の解明に関する研究	戸田 達史	神経内科	90,000,000	補 委 厚生労働省
レーザー消化管内視鏡治療装置の開発	東 健	消化器内科学	37,050,000	補 委 厚生労働省
性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	荒川 創一	総合臨床教育・育成学	12,605,000	補 委 厚生労働省
腎・泌尿器系の希少難治性疾患群に関する調査研究	飯島 一誠	小児科学	58,500,000	補 委 国立保健医療科学院
小児難治性ネフローゼ症候群に対する新規治療法を開発を目指した全国多施設共同臨床試験	飯島 一誠	小児科学	65,000,000	補 委 厚生労働省
rasがん遺伝子産物の新規立体構造情報に基づくがん分子標的治療薬の開発	片岡 徹	分子生物学	66,300,000	補 委 厚生労働省
緩和医療に携わる医療従事者の育成に関する研究	木澤 義之	先端緩和医療学	14,800,000	補 委 厚生労働省
ワクチン基礎生産技術の向上に関する研究	森 康子	臨床ウイルス学	30,875,000	補 委 厚生労働省
利便性の高い五種混合ワクチンの開発に向けた研究	森 康子	臨床ウイルス学	40,000,000	補 委 厚生労働省
大量出血症例に対する最適輸血療法確立に関する研究	大北 裕	心臓血管外科学	450,000	補 委 厚生労働省
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	小川 涉	糖尿病・代謝・内分泌内科学	1,270,000	補 委 国立保健医療科学院
急性期病院における認知症患者の入院・外来実態把握と医療者の負担軽減を目指した支援プログラムの開発に関する研究	木澤 義之	先端緩和医療学	300,000	補 委 厚生労働省
C型肝炎ウイルスの増殖制御機構解明と創薬開発のための分子基盤	勝二 郁夫	微生物学	5,000,000	補 委 厚生労働省
培養細胞感染系の確立されていない病原体の実験技術の開発と予防診断法に関する研究	勝二 郁夫	微生物学	2,000,000	補 委 厚生労働省
C型肝炎を含む代謝関連肝がんの病態解明及び治療法の開発等に関する研究	勝二 郁夫	微生物学	3,000,000	補 委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
重症のインフルエンザによる肺炎・脳症の病態解析・診断・治療に関する研究	新矢 恭子	人獣共通感染症学	1,500,000	補委 厚生労働省
間脳下垂体機能障害に関する調査研究	高橋 裕	糖尿病・代謝・内分泌内科学	3,900,000	補委 厚生労働省
希少性難治性疾患患者に関する医療の向上及び患者支援のあり方に関する研究	戸田 達史	神経内科学	1,000,000	補委 厚生労働省
神経変性疾患に関する調査研究	戸田 達史	神経内科学	3,500,000	補委 厚生労働省
特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究	錦織 千佳子	皮膚科学	3,500,000	補委 国立保健医療科学院
神経皮膚症候群に関する調査研究	錦織 千佳子	皮膚科学	1,500,000	補委 国立保健医療科学院
被災地の再生を考慮した在宅医療の構築に関する研究	橋本 正良	プライマリ・ケア医学	1,000,000	補委 厚生労働省
原発性高脂血症に関する調査研究	平田 健一	循環器内科学	900,000	補委 国立保健医療科学院
大規模災害における循環器病診療の体制と手法の確立に関する多施設共同研究	平田 健一	循環器内科学	1,050,000	補委 厚生労働省
身体疾患を合併する精神疾患患者の診療の質の向上に資する研究	平田 健一	循環器内科学	500,000	補委 厚生労働省
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	藤澤 正人	腎泌尿器科学	300,000	補委 厚生労働省
B型肝炎ウイルスの感染複製機構の解明に関する研究	堀田 博	微生物学	10,000,000	補委 厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	堀田 博	微生物学	1,600,000	補委 厚生労働省
C型肝炎から発がんにいたる病態進展の解明とその制御に関する研究	堀田 博	微生物学	2,000,000	補委 厚生労働省
加齢黄斑変性に対する個別化医療実現のための前向き臨床研究にもとづくゲノムワイド関連解析	本田 茂	眼科	750,000	補委 厚生労働省
造血器悪性腫瘍及び転移性がんを高頻度に異常を来している遺伝子を標的とした新たな治療法の開発に資する研究	的崎 尚	シグナル統合学	4,550,000	補委 厚生労働省
多機能幹細胞を用いた自然免疫再構築による肝炎治療法の開発と臨床応用	的崎 尚	シグナル統合学	2,000,000	補委 厚生労働省
ワクチンにより予防可能な疾患に対する予防接種の科学的根拠の確立及び対策の向上に関する研究	森 康子	臨床ウイルス学	1,200,000	補委 厚生労働省
抗リン脂質抗体症候群合併妊娠の治療及び予後に関する研究	山田 秀人	産科婦人科学	1,500,000	補委 厚生労働省
血液検体のゲノム・エピゲノム・トランスクリプトーム解析に基づく、膵がん・肺がん等の高危険度群の捕捉のためのバイオマーカーの同定	吉田 優	病因病態解析学	8,200,000	補委 厚生労働省
難治性造血器腫瘍に対する造血幹細胞移植の治療成績向上を目指した未承認・適応外薬のエビデンス確立に関する研究	片山 義雄	血液内科	500,000	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神経皮膚症候群に関する調査研究	荻田 典生	総合臨床教育センター	900,000	補委 国立保健医療科学院
進行性腎障害に関する調査研究	西 慎一	腎・血液浄化センター	1,300,000	補委 国立保健医療科学院
アミロイドーシスに関する調査研究	西 慎一	腎・血液浄化センター	1,400,000	補委 国立保健医療科学院
BPSDの予防法と発現機序に基づいた治療法・対応法の開発研究	山本 泰司	精神科神経科	700,000	補委 厚生労働省
造血細胞移植における肝中心静脈閉塞症(VOD)に対する本邦未承認薬defibrotideの国内導入のための研究:第I相および第II相試験(医師主導治験)	吉村 健一	臨床研究推進センター	500,000	補委 厚生労働省
小児の肉腫や脳腫瘍等に対するがんペプチドワクチン単剤療法の開発	吉村 健一	臨床研究推進センター	400,000	補委 厚生労働省
microRNA阻害剤による骨肉腫がん幹細胞制御を基盤とした新たな革新的がん治療の実用化を目指す前臨床試験	吉村 健一	臨床研究推進センター	1,000,000	補委 厚生労働省
慢性ウイルス性肝疾患の非侵襲的線維化評価法の開発と臨床的有用性の確立	吉村 健一	臨床研究推進センター	200,000	補委 厚生労働省
母子感染の実態把握及び検査・治療に関する研究	森岡 一朗	周産母子センター	1,500,000	補委 厚生労働省
母子感染の実態把握及び検査・治療に関する研究	山田 秀人	産科婦人科学	1,500,000	補委 厚生労働省
違法ドラッグ等の薬物依存のトレンドを踏まえた病態解析の解明と診断・治療法の開発	曾良 一郎	精神科神経科	1,200,000	補委 厚生労働省
難治性神経芽腫に対するIL2,CSF併用ch14.18免疫療法の国内臨床開発	吉村 健一	臨床研究推進センター	800,000	補委 厚生労働省
小児期発症脊髄性筋萎縮症に対するバルプロ酸ナトリウム多施設医師主導治験準備研究	西尾 久英	疫学	4,000,000	補委 国立保健医療科学院
B型肝炎ウイルス構造解析による薬剤応答性の評価と新規治療薬開発に関する研究	矢野 嘉彦	消化器内科学	5,000,000	補委 厚生労働省
がん診療拠点病院におけるがん疼痛緩和に対する取り組みの評価と改善に関する研究	木澤 義之	先端緩和医療学	500,000	補委 厚生労働省
人生の最終段階における医療にかかる相談員の研修プログラム案を作成する研究	木澤 義之	先端緩和医療学	200,000	補委 厚生労働省
感染・炎症によるゲノム不安定性と発がん機構	東 健	消化器内科学	23,790,000	補委 文部科学省
脂肪蓄積制御の生理と病理における遺伝子転写ネットワーク解析	小川 涉	糖尿病・内分泌内科	17,160,000	補委 文部科学省
パーキンソン病および認知機能関連分子とパーソナルゲノム解析	戸田 達史	神経内科	36,140,000	補委 文部科学省
造血幹細胞の異系列分化と造血器疾患との関連	片山 義雄	血液内科	6,240,000	補委 文部科学省
福山型筋ジストロフィーおよび類縁疾患の分子標的治療と病態解明	戸田 達史	神経内科	13,910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
造血制御中枢としての骨組織の評価	片山 義雄	血液内科	4,810,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
膝前十字靭帯再建術における血管幹細胞応用の可能性	黒坂 昌弘	整形外科	3,380,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
PGC1 $\alpha$ 新規アイソフォームの機能解析を通じた運動による代謝改善機構の包括的解析	小川 渉	糖尿病・内分泌内科	4,160,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
消化器癌のDNA修復系遺伝子解析による抗癌剤高感受性群の同定と個別化治療の展開	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	2,730,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
嗅上皮と嗅球の再生機構解明に関する網羅的研究	丹生 健一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	4,030,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マルチターゲットメタボロミクスを用いたがん診断システムの開発	吉田 優	消化器内科学	8,060,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
体内吸収性スパーサーを用いた膵臓癌の空間可変放射線治療の開発	佐々木 良平	放射線腫瘍科	5,070,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
メタボローム解析を用いたグリオーマにおける新規バイオマーカーの探索	甲村 英二	脳神経外科学	7,670,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
アジア圏におけるヘリコバクター属細菌感染及びその関連消化器疾患予防対策調査研究	東 健	消化器内科学	6,630,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
赤外レーザーによる乳頭温存結石治療の開発研究	早雲 孝信	消化器先端医療開発部門	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
MR内視鏡システムを用いた消化管癌に対する新たな治療支援技術の開発	森田 圭紀	消化器内科	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
C型肝炎ウイルス感染による癌化誘導機構の解明	デン リン	附属感染症センター	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
視覚障害者の患者が利用可能な病院内の触地図提供に向けた研究	花岡 澄代	看護部	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
遺伝子解析とプロテオーム解析を駆使したアジア型がんに対するキナーゼ阻害薬の個別化	向原 徹	腫瘍センター	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
プロテオーム、メタボローム解析による抗がん薬至適投与方法の確立	南 博信	腫瘍・血液内科学	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
質量分析計を用いた食道がん早期診断法の開発	豊永 高史	光学医療診療部	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
スフィンゴリン脂質シグナル制御による新しい気管支喘息治療へのアプローチ	小林 和幸	呼吸器内科学	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新規CAKUT原因遺伝子の発現・機能解析と包括的遺伝子診断システムの構築	飯島 一誠	小児科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
下垂体機能低下症における新規自己抗体の同定と臨床応用	井口 元三	糖尿病・内分泌内科	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
好酸球増多症候群に対する新しいバイオマーカーに基づいた診断と標準治療法の確立	定 明子	血液内科	390,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マイクロRNAによる新規関節リウマチ治療法の開発	中町 祐司	医療技術部臨床検査部門	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
筋ジストロフィーに対するアンチセンス治療における線維化因子の動態に関する研究	竹島 泰弘	小児科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
エクソスキッピング誘導効率を規定するシス因子の解明	八木 麻理子	小児科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
紫外線による皮膚発癌、皮膚炎症、白内障及び乾癬におけるホスホリパーゼC $\epsilon$ の役割	岡 昌宏	皮膚科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
体内空間創造による難治癌に対する新規放射線治療法の開発	村岡 修	放射線腫瘍科	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
尾側膵切除における術前内視鏡的膵管ステント留置術の有用性	松本 逸平	肝胆膵外科	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
癌宿主相互作用による肺癌の浸潤・転移におけるNECL5の役割の研究	眞庭 謙昌	呼吸器外科	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
変形性関節症の治療を目的とした軟骨細胞のアポトーシス制御機構の解明	西山 隆之	整形外科	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
尿路上皮癌の悪性進展における上皮間葉転換の分子生物学的検討	村蒔 基次	泌尿器科	650,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
生殖・産科異常におけるリラキシンと免疫異常の関連解明	山田 秀人	産婦人科学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
卵巣癌において異常活性化したリン酸化酵素の同定とその特異的阻害剤の開発	須藤 保	肝胆膵外科	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
音響外傷性難聴における細胞死制御メカニズムと新たな治療法開発	山下 大介	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
咽頭癌治療における新たな嚥下リハビリテーション、嚥下評価法の開発	斎藤 幹	耳鼻咽喉・頭頸部外科	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
加齢黄斑変性の病態特異的な遺伝子多型の同定と個別化治療への応用	本田 茂	眼科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
視神経変性における網膜・視神経のアクアポリンの局在変化と網膜神経節細胞死への関与	中村 誠	眼科学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
未熟児網膜症におけるアドレナリン $\alpha$ 1受容体の役割解明と制御による治療法の開発	塚原 康友	眼科学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
点字文書提供システムを用いた病院内運用体制の確立	松浦 正子	看護部	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
消化管内phased arrayコイルによる高分解能MR撮像とプロトンMRS	松岡 雄一郎	消化器内科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
水痘帯状疱疹ウイルス新規遺伝子産物を標的とした潜伏感染機構の解明	定岡 知彦	附属感染症センター	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ウイルスの変異率を下げるための研究	新矢 恭子	人獣共通感染症学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
医療文書の自動点字翻訳を実現する辞書と固有表現点訳システムの研究開発	菅野 亜紀	医療情報部	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
鍼通電で発見したAig1タンパク質の機能と鍼治療メカニズムの解明	大田 美香	医療情報部	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
C型肝炎ウイルスによる糖代謝異常の分子機序の解明	堀田 博	附属感染症センター	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
血管内皮リパーゼのDysfunctional HDLと動脈硬化の成因に及ぼす影響	石田 達郎	循環器内科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腸内細菌叢を変化させて腸管免疫修飾を介する新規動脈硬化予防法の開発研究	山下 智也	循環器内科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
気道アレルギー免疫応答に対するスフィンゴリン脂質系の役割の解明	西村 善博	循環器内科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腎移植後急性拒絶反応の新規診断法の開発	西 禎一	腎・血液浄化センター	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
FSP27による臓器間の脂肪分布変化がインスリン感受性を制御するメカニズムの解明	田守 義和	糖尿病・内分泌内科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
運動による糖脂質代謝改善機構の解明と生活習慣病に対する新規運動効果模倣薬の探索	細岡 哲也	糖尿病・内分泌内科	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
神経軸索ガイダンス分子を用いた新規白血病治療法の開発	松岡 広	腫瘍・血液内科学	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
メタボロームに着目した膠原病の新規治療法および診断法の開発	三枝 淳	膠原病リウマチ内科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
福山型先天性筋ジストロフィーの治療法の確立に関する研究	池田 真理子	小児科学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
チオレドキシンとその誘導物質による皮膚炎治療薬の開発に関する研究	福永 淳	皮膚科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
定量的コンピュータ断層血流評価とオミックス情報による肺癌の標準治療効果予測	大野 良治	機能・画像診断学部門	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
超高線量率X線照射の生体反応と医学利用に関する基礎的検討	岡本 欣晃	放射線腫瘍科	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞を利用した膵島移植によるI型糖尿病治療の確立	浅利 貞毅	肝胆膵外科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
薬物的大動脈瘤治療法開発に関する基礎的研究	岡田 健次	心臓血管外科学	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脳虚血のメタボローム解析:脳虚血前後代謝変化の包括的解析によるバイオマーカー探索	細田 弘吉	脳神経外科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
骨髄間質細胞移植による下垂体機能再生の研究	谷口 理章	脳神経外科	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
椎間板ヘルニアにおける侵害受容性疼痛と神経障害性疼痛のメカニズムの解明	高田 徹	整形外科	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
椎間板変性に由来する疼痛発生メカニズムの解明	前野 耕一郎	整形外科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
メカレノセプターをターゲットとした椎間板変性予防医療の開発	土井田 稔	整形外科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腎細胞癌のチロシンキナーゼ阻害剤に対する耐性獲得機構の解明と新規治療法の開発	三宅 秀明	腎泌尿器科学	2,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
メタボロミクスによる音響外傷性難聴の病態解明と新たな治療法の開発	長谷川 信吾	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
RNA干渉法による血液内耳関門の薬物透過性の調節	谷本 均	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脂肪組織由来多系統前駆細胞を用いた遺伝子導入を伴わない平滑筋再生の基礎的研究	一瀬 晃洋	美容外科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
メタボローム解析による口腔がん早期発見スクリーニング法の開発	古森 孝英	口腔外科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
視線追尾・計測システムによる内視鏡手術における新しいトレーニング方法の確立	角 泰雄	食道胃腸外科学	2,990,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ラット筋損傷モデルにおける炭酸ガス経皮吸収の効果についての検討	酒井 良忠	リハビリテーション機能回復学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
母体と胎児間の栄養輸送におけるmTORシグナルの新たな役割	平野 剛	薬剤部	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マウス脊髄虚血モデルに対するヒト血管内皮前駆細胞移植による脊髄修復効果の検討	大北 裕	心臓血管外科学	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
粥状硬化の進展におけるHDL機能不全の役割に関する統合的研究	平田 健一	循環器内科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
アムルピシンによる薬剤耐性化機構の解析	立原 素子	呼吸器内科学	2,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
筋萎縮性側索硬化症の早期診断における高密度表面筋電図の応用	関口 兼司	神経内科	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
転写後調節因子TFLによるB細胞リンパ腫発症メカニズムの解明	皆川 健太郎	総合内科	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ステロイド性骨粗鬆症の克服のための臨床的、基礎的研究	蔭山 豪一	膠原病リウマチ内科	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マイクロRNAによるリウマチ関節破骨細胞制御に関する研究	河野 誠司	総合臨床教育センター	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
胎児付属物由来の間葉系幹細胞を用いた新生児慢性肺疾患に対する新規治療の開発	溝渕 雅巳	小児科学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
紫外線-活性酸素由来のDNA損傷における皮膚発癌メカニズム;炎症はどう関与する?	国定 充	皮膚科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
悪性黒色腫、乾癬の新しい治療戦略におけるIL-23とIL-27の役割とその応用	永井 宏	皮膚科	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
解離性大動脈瘤モデル作成とこれを用いた適切な血管内治療法の評価	杉本 幸司	血管内治療センター	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
VX2担癌ウサギモデルにおける選択的動脈内炭酸ガス注入治療の効果の検討	山口 雅人	放射線医学部門	2,470,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
外傷性肝後面下大静脈損傷に対する新たな血管内治療法の開発	井戸口 孝二	放射線科	2,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
放射線治療における腸管の耐容能向上を図る機能性食品の開発	江島 泰生	放射線腫瘍科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規開発高描出能腔壁拡張ス ペーサーを用いた3次元画像誘導 小線源治療の確立	吉田 賢史	放射線腫瘍科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
放射光を用いた高精度格子状照射 による腫瘍および正常組織の生物 学的効果の基礎的研究	西村 英輝	放射線腫瘍科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
消化器癌のがん微小環境を標的と した分子標的薬と抗癌剤併用療法 の開発	鈴木 知志	食道胃腸外科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
NKT細胞の自然免疫と獲得免疫の クロストークを用いた癌治療法の開 発	山下 公大	食道胃腸外科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
被爆のない血管内治療外科の確 立に関する研究	藤田 敦史	脳神経外科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
IDH変異とマイクロRNA異常—IDH 変異によるグリオーマ発生メカニズ ムの解析—	篠山 隆司	脳神経外科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
機能的脳神経疾患の放射線治療: マイクロビームX線による選択的 神経細胞死の応用	近藤 威	脳神経外科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
明細胞肉腫の肺転移に対するホウ 素中性子捕捉療法を用いた新たな 治療方法の開発	藤本 卓也	整形外科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
難治性骨折に対するCD34陽性細 胞移植術における有効な新規治療 法の開発	松本 知之	整形外科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
尿路感染症分離菌におけるカルバ ペネマーゼ産生菌の研究	重村 克巳	腎泌尿器科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
精巣内精子回収法における新たな 回収予測因子の確立	原口 貴裕	手術部	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
子宮内膜の性周期および発癌過程 におけるPITX1発現とテロメラーゼ 制御の解析	蝦名 康彦	産科婦人科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
神経変性疾患に対する嗅覚検査の 診断的有用性に関する研究	土井 清司	耳鼻咽喉科頭頸 部外科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
頭頸部癌に対するヒト乳頭腫ウイ ルス遺伝子を標的とした集学的治 療の開発	大月 直樹	耳鼻咽喉科頭頸 部外科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
視神経脊髄炎における視神経炎モ デル確立とその解析	金森 章泰	眼科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
血管奇形悪化機序の解明 ~成長 ホルモン受容体を巡って~	野村 正	形成外科	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
視覚障害患者への情報保障:適切 な点字医療文章表現と文章自動変 換プログラムの研究	池上 峰子	看護部	2,340,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
異質性の認識と個別対応を備えた web研修システムの開発	平井 みどり	薬剤部	650,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
Open MRI を用いた高精度消化器 癌リンパ節ナビゲーション手術シス テムの開発	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	780,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
レーザー内視鏡治療システムの開 発	東 健	消化器内科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会
MDSCに着目した自己免疫病態 の解明と新規治療法開発	森信 暁雄	免疫内科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術 振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
炭酸ガス経皮吸収を用いた骨軟部悪性腫瘍に対する放射線治療の増強効果	秋末 敏宏	整形外科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
膝前十字靭帯再建術における骨一鍵間結合早期治癒に関する研究	黒坂 昌弘	整形外科	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ワイヤーミオグラフィシステムによる血管抗攣縮薬の薬理学的作用と力価の決定	榊原 俊介	美容外科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ナノ粒子化したチタン酸化物を用いた新規放射線増感療法	佐々木 良平	放射線腫瘍科	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
胎児仮死時の帝王切開時の吸入麻酔薬による全身麻酔の安全性の再評価	植木 正明	麻酔科学	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
小径腎癌に対するロボット腎部分切除術における新しい手術法の開発	藤澤 正人	腎泌尿器科学	3,250,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
増殖制限型アデノウイルスを用いた遺伝子導入による頭頸部癌治療法の開発	丹生 健一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
定量的タンパク質発現解析を利用したマイクロ解剖学アトラスの開発	橋川 和信	形成外科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
無細胞性真皮マトリックス上での複合粘膜培養法を応用した新しい癌浸潤モデルの開発	重田 崇至	歯科口腔外科	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
メタボロミクスによる炎症性腸疾患の評価とその治療候補因子の同定	西海 信	消化器内科学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
甲状腺発癌過程でSNX蛋白が果たす役割の解明	原 重雄	病理診断科	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
緩和ケアチームの介入が悪性腫瘍患者の生活の質にもたらす効果に関する研究	坂下 明大	腫瘍センター	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
子宮内胎児発育遅延児における長寿遺伝子発現に関する研究	森岡 一朗	周産母子センター	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
P21発現制御による変形性関節症における関節軟骨再生への挑戦	林 申也	整形外科	780,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Parathyroid hormoneの難治性骨折・骨癒合不全治療への応用	新倉 隆宏	リハビリテーション機能回復学	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
VAV1-Rac1-PAK1経路の制御による卵巣癌の新たな治療戦略の開発	若橋 宣	血液内科学	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
細胞間接着複合体に着眼した癌新生リンパ管の特質性の解明	明石 昌也	形成外科	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マルチターゲット脂質プロファイリングによる大腸がんの早期診断バイオマーカー探索	和泉 自泰	消化器内科学	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
アミノ酸が膵β細胞量に及ぼす影響の解明	浅原 俊一郎	糖尿病・内分泌内科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
分子標的治療薬による皮膚障害の副作用バイオマーカーの探索	山本 和宏	薬剤部	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ヒトヘルペスウイルス6特異的な糖タンパク質gQ1の機能解析	湯 華民	附属感染症センター	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
呼吸器免疫系におけるホスホリパーゼC $\epsilon$ の役割	永野 達也	呼吸器内科	2,340,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
福山型筋ジストロフィーの治療を目指した $\alpha$ ジストログリカン糖鎖修飾構造の解析	久我 敦	神経内科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
PGC1 $\alpha$ 新規アイソフォームのエネルギー代謝制御における機能の解析	野村 和弘	糖尿病・内分泌内科	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
膵 $\beta$ 細胞におけるインスリンシグナルのエピジェネティクス制御に関する検討	橋本 尚子	糖尿病・内分泌内科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
膵 $\beta$ 細胞機能調節に関するeIF2 $\alpha$ キナーゼGCN2の機能解析	木村 真希 (小柳真希)	糖尿病・内分泌内科	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ヒト下垂体腺腫におけるErbB受容体ファミリー機能の解明	福岡 秀規	糖尿病・内分泌内科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
白血病治療における神経軸索ガイダンス分子の役割	岩本 有里子	腫瘍・血液内科	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
脊髄性筋萎縮症のSMN2遺伝子のスプライシングを正常化させる新規治療薬の開発	中川 卓	小児科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
鉄が誘導するアポトーシスに着目した肉眼的血尿を伴う急性腎傷害の病態解明	貝藤 裕史	小児科	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
フィブロネクチン腎症の病因・病態の解明	大坪 裕美	小児科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
紫外線誘導性皮膚発癌・皮膚炎症・白内障及び乾癬におけるホスホリパーゼC $\epsilon$ の役割	坂口 正展	皮膚科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
悪性膠芽腫における放射線抵抗性とNF- $\kappa$ B発現との関連性に関する研究	NOR SHAZ RINA	放射線腫瘍科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Redox制御を用いた抗酸化食品と生体吸収性スパーサーによる消化管防護放射線治療	原田 文	放射線腫瘍科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
頭頸部悪性黒色腫に対する重粒子線治療における患者検体遺伝子解析による予後予測	出水 祐介	放射線腫瘍科	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マイクロRNAによるmTORC2の制御機構の解明と治療への応用	田中 一寛	脳神経外科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
骨折治癒過程におけるmicroRNAの関与と治療への応用	李 相亮	整形外科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
糖化ストレス抑制による高齢者における非外傷性肩腱板断裂予防の可能性	美船 泰	リハビリテーション部	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
前立腺癌ホルモン非依存性進展および抗癌剤耐性獲得におけるIL-6の役割	酒井 伊織	腎泌尿器科学	390,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
二光子励起法を応用したロボット支援前立腺全摘術中ナビゲーションシステムの開発	日向 信之	泌尿器科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
嗅上皮の発生・再生における形態形成を制御する細胞接着分子の機能解析	勝沼 紗矢香	耳鼻咽喉・頭頸部外科	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Mrp4の網膜血管新生における役割の解明	楠原 仙太郎	眼科学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ゲノム解析による日本人の加齢黄斑変性感受性遺伝子同定	近藤 直士	眼科	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
口径1mmの再生型人工血管の実用化を目指して	高須 啓之	形成外科	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ミトコンドリアをターゲットとした口腔癌新規治療法の開発	長谷川 巧実	歯科口腔外科	1,170,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
口腔内腫瘍病変の悪性化と環境因子の相関—TRPチャネルをめぐって—	榊原 晶子	歯科口腔外科	520,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
蛋白質による膵β細胞量調節機構の解明	松田 友和	糖尿病・内分泌内科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
病原菌/非病原菌認識機序におけるIL-10の役割とその調節の解明	星 奈美子	消化器内科学	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
動脈硬化性疾患における制御性T細胞の関与の解明	佐々木 直人	循環器内科学	2,210,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
心不全における心筋脂質代謝異常の機序の解明	田中 秀和	循環器内科	2,080,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
EGFR-TKIによるEMTを介した肺癌の薬剤耐性獲得と肺線維化機序の解明	田村 大介	呼吸器内科	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新規糖尿病治療薬としてのEpac2A活性化化合物の同定	菅原 健二	糖尿病・内分泌内科	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
マクロファージ炎症抑制機構の解明とその制御—糖尿病治療にむけて	楯谷 三四郎	糖尿病・内分泌内科	2,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
溶血性尿毒症症候群における尿細管障害の包括的病態解明研究	忍頂寺 毅史	小児科学	1,820,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
腎尿路奇形疾患のゲノム情報を基盤とした新しいヒトネフロン分化誘導系の構築	庄野 朱美	小児科学	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
機能画像における3次元呼吸運動評価法の開発と臨床応用	神山 久信	血管内治療センター	1,690,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
MRIテンソル画像を用いた陰茎海綿体神経描出に関する研究	北島 一宏	放射線部	1,430,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
磁気共鳴画像による微小循環障害の定量評価:反応性充血に対するBOLD効果を用いて	河野 淳	放射線科	910,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
HPV感染由来の頭頸部癌の新規・放射線抵抗性分子マーカーに関する研究	宮脇 大輔	放射線医学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
中枢神経損傷時のRacシグナルを中心とした神経機能回復メカニズムの解析	甲田 将章	脳神経外科学	1,950,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
新生児期マウスへの静脈麻酔薬の反復投与が脳神経発達に与える影響	森下 淳	麻酔科	1,560,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
p62を介した癌細胞の悪性形質獲得の解明及び新規治療の開発	熊野 晶文	腎泌尿器科学	1,040,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
血管奇形増殖因子を探る ~CAMアッセイを通じて~	江尻 浩隆	形成外科	2,470,000	補委 独立行政法人日本学術振興会



高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Muradi A, Yamaguchi M, Sakamoto N, Okada T, Idoguchi K, Sugimoto K	放射線部	Successful n-butyl cyanoacrylate embolization of a spontaneous rupture of the internal mammary artery in a patient with myelodysplastic syndrome: report of a case	Surg Today. 2014 Mar; 44(3): 564-7
2	Ueshima E, Yamaguchi M, Ueha T, Muradi A, Okada T, Idoguchi K, Sofue K, Akisue T, Miwa M, Fujii M, Sugimoto K	放射線部	Inhibition of Growth in a Rabbit VX2 Thigh Tumor Model with Intraarterial Infusion of Carbon Dioxide-Saturated Solution	J Vasc Interv Radiol. 2014 Mar; 25(3): 469-76
3	Okada T, Frank M, Pellerin O, Primio MD, Angelopoulos G, Boughenou MF, Pagny JY, Messas E, Sapoval M	放射線部	Embolization of life-threatening arterial rupture in patients with vascular Ehlers-Danlos syndrome	Cardiovasc Intervent Radiol. 2014 Feb; 37(1): 77-84
4	Kitajima K, Suenaga Y, Ueno Y, Kanda T, Maeda T, Makihara N, Ebina Y, Yamada H, Takahashi S, Sugimura K	放射線部	Value of fusion of PET and MRI in the detection of intra-pelvic recurrence of gynecological tumor: comparison with 18F-FDG contrast-enhanced PET/CT and pelvic MRI	Ann Nucl Med. 2014 Jan; 28(1): 25-32
5	Okada T, Yamaguchi M, Muradi A, Nomura Y, Uotani K, Idoguchi K, Miyamoto N, Kawasaki R, Taniguchi T.	放射線部、血管内治療センター	Long-term Results of Endovascular Stent Graft Placement of Ureteroarterial Fistula	Cardiovasc Intervent Radiol. 2013 Aug; 36(4): 950-6
6	Kitajima K, Takahashi S, Ueno Y, Miyake H, Fujisawa M, Kawakami F, Sugimura K	放射線部	Do apparent diffusion coefficient (ADC) values obtained using high b-values with a 3-T MRI correlate better than a transrectal ultrasound (TRUS)-guided biopsy with true Gleason scores obtained from radical prostatectomy specimens for patients with prostat	Eur J Radiol. 2013 Aug; 82(8): 1219-26

小計:6

7	Ueno Y, Kitajima K, Sugimura K, Kawakami F, Miyake H, Obara M, Takahashi S	放射線部	Ultra-high b-value diffusion-weighted MRI for the detection of prostate cancer with 3-T MRI	J Magn Reson Imaging. 2013 Jul; 38(1): 154-60
8	Ueno Y, Takahashi S, Kitajima K, Kimura T, Aoki I, Kawakami F, Miyake H, Ohno Y, Sugimura K	放射線部、機能・画像診断学	Computed diffusion-weighted imaging using 3-T magnetic resonance imaging for prostate cancer diagnosis	Eur Radiol. 2013 Dec; 23(12): 3509-16
9	Kitajima K, Suenaga Y, Ueno Y, Kanda T, Maeda T, Takahashi S, Ebina Y, Miyahara Y, Yamada H, Sugimura K	放射線部	Value of fusion of PET and MRI for staging of endometrial cancer: comparison with <sup>18</sup> F-FDG contrast-enhanced PET/CT and dynamic contrast-enhanced pelvic MRI	Eur J Radiol. 2013 Oct; 82(10): 1672-6
10	Goto S, Kitamura K, Kono K, Nakai K, Fujii H, Nishi S	腎・血液浄化センター、腎臓内科	Association between AST-120 and abdominal aortic calcification in predialysis patients with chronic kidney disease	Clin Exp Nephrol. 2013 Jun; 17(3): 365-71
11	Morita Y, Tanaka S, Toyonaga T, Azuma T	光学医療診療部	Barrett's adenocarcinoma in long-segment Barrett's esophagus successfully detected by narrow-band imaging with magnifying endoscopy	Dig Endosc. 2013 May; 25(Suppl 2): 201-5
12	Toyonaga T, Man-i M, Morita Y, Azuma T.	光学医療診療部	Endoscopic submucosal dissection (ESD) versus Simplified / Hybrid ESD.	Gastrointest Endoscopy Clin N Am. 2014; 24(4): 191-199
13	Toyonaga T, Azuma T.	光学医療診療部	How to prevent complications at ESD of colorectal lesions.	Video Journal and Encyclopedia of GI Endoscopy. 2013; 1(2): 365-366

小計:7

14	Toyonaga T, Man-i M, East JE, et al.	光学医療診療部	1,635 Endoscopic submucosal dissection cases in the esophagus, stomach and colorectum: complication rates and long-term outcomes.	Surg Endosc. 2013; 27(3): 1000-1008
15	Usami M, Miyoshi M, Kanbara Y, Aoyama M, Sakaki H, Shuno K, Hirata K, Takahashi M, Ueno K, Hamada Y, Tabata S,	栄養管理部	Analysis of fecal microbiota, organic acids and plasma lipids in hepatic cancer patients with or without liver cirrhosis	Clin Nutr. 2013 Jun; 32(3): 444-51
16	Muradi A, Yamaguchi M, Idoguchi K, Okada T, Nomura Y, Okita Y, Sugimoto K	血管内治療センター	Lessons learned from endovascular management of ureteroarterial fistula	Vasc Endovascular Surg. 2014 Feb; 48(2): 159-61
17	Ohno Y, Nishio M, Koyama H, Yoshikawa T, Matsumoto S, Seki S, Tsubakimoto M, Sugimura K	血管内治療センター、機能・画像診断学	Oxygen-enhanced MRI for patients with connective tissue diseases: comparison with thin-section CT of capability for pulmonary functional and disease severity assessment	Eur J Radiol. 2014 Feb; 83(2): 391-7
18	Ohno Y, Nishio M, Koyama H, Takenaka D, Takahashi M, Yoshikawa T, Matsumoto S, Obara M, van Cauteren M, Sugimura K	血管内治療センター、機能・画像診断学	Pulmonary MR imaging with ultra-short TEs: Utility for disease severity assessment of connective tissue disease patients	Eur J Radiol. 2013 Aug; 82(8): 1359-65
19	Ohno Y, Nishio M, Koyama H, Yoshikawa T, Matsumoto S, Takenaka D, Seki S, Tsubakimoto M, Sugimura K	血管内治療センター、機能・画像診断学	Comparison of the utility of whole-body MRI with and without contrast-enhanced Quick 3D and double RF fat suppression techniques, conventional whole-body MRI, PET/CT and conventional examination for assessment of recurrence in NSCLC patients	Eur J Radiol. 2013 Nov; 82(11): 2018-27
20	Nakagawa T, Ge Q, Pawlosky R, Wynn RM, Veech RL, Uyeda K	薬剤部	Metabolite regulation of nucleo-cytosolic trafficking of carbohydrate response element-binding protein (ChREBP): role of ketone bodies	J Biol Chem. 2013 Sep 27; 288(39): 28358-67

小計:7

21	Kume Manabu, Yasui Hiroyuki, Takahashi Minoru, Yamawaki Chika, Higashiguchi Kanae, Kobayashi Yoko, Kuroda Daisuke.	薬剂部	Perioperative change in plasma platinum concentration in patients receiving cisplatin-based chemotherapy	The Japanese Journal of TDM. 2013 Sep; 30(4): 142-148
22	Yamamoto K, Uda A, Mukai A, Yamashita K, Kume M, Makimoto H, Bito T, Nishigori C, Hirano T, Hirai M	薬剂部	Everolimus-induced human keratinocytes toxicity is mediated by STAT3 inhibition	J Exp Clin Cancer Res. 2013 Oct 25; 32(1): 83-83
23	Omatsu H, Kuwahara A, Yamamori M, Fujita M, Okuno T, Miki I, Tamura T, Nishiguchi K, Okamura N, Nakamura T.	薬剂部	TNF- $\alpha$ -857C>T genotype is predictive of clinical response after treatment with definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma	Int J Med Sci. 2013 Oct 15; 10(12): 1755-60
24	Obata D, Morita Y, Kawaguchi R, Ishii K, Hazama H, Awazu K, Kutsumi H, Azuma T	消化器先端医療開発	Endoscopic submucosal dissection using a carbon dioxide laser with submucosally injected laser absorber solution (porcine model)	Surg Endosc. 2013 Nov; 27(11): 4241-9
25	Kakuyama S, Nobutani K, Masuda A, Shiomi H, Sanuki T, Sugimoto M, Yoshida M, Arisaka Y, Fujita T, Hayakumo T, Azuma T.	消化器先端医療開発	Sphincter of Oddi manometry using guide-wire-type manometer is feasible for examination of sphincter of Oddi motility	J Gastroenterol. 2013 Oct; 48(10): 1144-50
26	Tanaka S, Toyonaga T, Morita Y	消化器内科、光学医療診療部	Endoscopic vessel sealing: A novel endoscopic precoagulation technique for blood vessels during endoscopic submucosal dissection	Dig Endosc. 2013 May; 25(3): 341-2
27	Kobayashi T, Nishiumi S, Ikeda A, Yoshie T, Sakai A, Matsubara A, Izumi Y, Tsumura H, Tsuda M, Nishisaki H.	消化器内科	A novel serum metabolomics-based diagnostic approach to pancreatic cancer	Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2013 Apr; 22(4): 571-9

小計:7

28	Saito M, Seo Y, Yano Y, Momose K, Hirano H, Yoshida M, Azuma T	消化器内科	Serum albumin and prothrombin time before entecavir treatment in chronic hepatitis B or cirrhosis are related to amelioration of liver function after treatment	Eur J Gastroenterol Hepatol. 2013 Dec; 25(12): 1369-76
29	Kobayashi T, Nishiumi S, Yoshida M, Azuma T	消化器内科	Serum metabolomic analysis of pancreatic cancer--response	Cancer Epidemiol Biomarkers Prev. 2013 Oct; 22(10): 1922-1922
30	Saito M, Seo Y, Yano Y, Momose K, Hirano H, Yoshida M, Azuma T	消化器内科	Reduction in non-protein respiratory quotient is related to overall survival after hepatocellular carcinoma treatment	PLoS One. 2013 ; 8(3): e55441-e55441
31	Mori K, Ishida T, Yasuda T, Monguchi T, Sasaki M, Kondo K, Hasokawa M, Nakajima H, Haraguchi Y, Sun L, Shinohara M, Toh R,	循環器内科	Fasting serum concentration of apolipoprotein B48 represents residual risks in patients with new-onset and chronic coronary artery disease	Clin Chim Acta. 2013 Jun 5; 421: 51-6
32	Nakajima H, Ishida T, Satomi-Kobayashi S, Mori K, Hara T, Sasaki N, Yasuda T, Toh R, Tanaka H, Kawai H, Hirata K,	循環器内科	Endothelial lipase modulates pressure overload-induced heart failure through alternative pathway for Fatty Acid uptake	Hypertension. 2013 May; 61(5): 1002-7
33	Taniguchi Y, Emoto N, Miyagawa K, Nakayama K, Kinutani H, Tanaka H, Shinke T, Okada K, Okita Y, Hirata KI	循環器内科	Subsequent shunt closure after targeted medical therapy can be an effective strategy for secundum atrial septal defect with severe pulmonary arterial hypertension: two case reports : Strategy for ASD with Severe PAH	Heart Vessels. 2013 Apr 18
34	Yasui N, Takaoka Y, Nishio H, Nurputra DK, Sekiguchi K, Hamaguchi H, Kowa H, Maeda E, Sugano A, Miura K,	神経内科	Molecular pathology of Sandhoff disease with p.Arg505Gln in HEXB: application of simulation analysis	J Hum Genet. 2013 Sep; 58(9): 611-7

小計:7

35	Ueda T, Seki T, Katanazaka K, Sekiguchi K, Kobayashi K, Kanda F, Toda T	神経内科	A novel mutation in the C2 domain of protein kinase C gamma associated with spinocerebellar ataxia type 14	J Neurol. 2013 Jun; 260(6): 1664-6
36	Uenaka T, Kowa H, Sekiguchi K, Nagata K, Ohtsuka Y, Kanda F, Toda T	神経内科	Myositis with antimitochondrial antibodies diagnosed by rectus abdominis muscle biopsy	Muscle Nerve. 2013 May; 47(5): 766-8
37	Mizuta I, Takafuji K, Ando Y, Satake W, Kanagawa M, Kobayashi K, Nagamori S, Shinohara T, Ito C, Yamamoto M, Hattori N,	神経内科	YY1 binds to $\alpha$ -synuclein 3'-flanking region SNP and stimulates antisense noncoding RNA expression	J Hum Genet. 2013 Nov; 58(11): 711-9
38	Goto S, Nakai K, Kono K, Yonekura Y, Ito J, Fujii H, Nishi S	腎臓内科	Dietary phosphorus restriction by a standard low-protein diet decreased serum fibroblast growth factor 23 levels in patients with early and advanced stage chronic kidney disease	Clin Exp Nephrol. 2014 Mar 1
39	Yamamoto M, Iguchi G, Fukuoka H, Suda K, Bando H, Takahashi M, Nishizawa H, Seino S, Takahashi Y	糖尿病・内分泌内科	SIRT1 regulates adaptive response of the growth hormone--insulin-like growth factor-I axis under fasting conditions in liver	Proc Natl Acad Sci U S A. 2013 Sep 10; 110(37): 14948-53
40	Asahara S, Shibutani Y, Teruyama K, Inoue HY, Kawada Y, Etoh H, Matsuda T, Kimura-Koyanagi M, Hashimoto N,	糖尿病・内分泌内科	Ras-related C3 botulinum toxin substrate 1 (RAC1) regulates glucose-stimulated insulin secretion via modulation of F-actin	Diabetologia. 2013 May; 56(5): 1088-97
41	Sakaguchi K, Hirota Y, Hashimoto N, Ogawa W, Hamaguchi T, Matsuo T, Miyagawa J, Namba M, Sato T, Okada S,	糖尿病・内分泌内科	Evaluation of a minimally invasive system for measuring glucose area under the curve during oral glucose tolerance tests: usefulness of sweat monitoring for precise measurement	J Diabetes Sci Technol. 2013 May 1; 7(3): 678-88

小計:7

42	Okuno Y, Sakaguchi K, Komada H, Hashimoto N, Hirota Y, Nakamura T, Ogawa W, Seino S	糖尿病・内分泌内科	Correlation of serum CPR to plasma glucose ratio with various indices of insulin secretion and diseases duration in type 2 diabetes	Kobe J Med Sci. 2013 Apr 18; 59(2): E44-53
43	Bando H, Iguchi G, Fukuoka H, Taniguchi M, Yamamoto M, Matsumoto R, Suda K, Nishizawa H, Takahashi M, Kohmura E,	糖尿病・内分泌内科	The prevalence of IgG4-related hypophysitis in 170 consecutive patients with hypopituitarism and/or central diabetes insipidus and review of the literature	Eur J Endocrinol. 2013 Dec 21; 170(2): 161-72
44	Okuno Y, Komada H, Sakaguchi K, Nakamura T, Hashimoto N, Hirota Y, Ogawa W, Seino S	糖尿病・内分泌内科	Postprandial serum C-peptide to plasma glucose concentration ratio correlates with oral glucose tolerance test- and glucose clamp-based disposition indexes	Metabolism. 2013 Oct; 62(10): 1470- 6
45	Suda K, Inoshita N, Iguchi G, Fukuoka H, Takahashi M, Nishizawa H, Yamamoto M, Yamada S, Takahashi Y	糖尿病・内分泌内科	Efficacy of combined octreotide and cabergoline treatment in patients with acromegaly: a retrospective clinical study and review of the literature	Endocr J. 2013 ; 60(4): 507-515
46	Toyoda M, Ajiki T, Fujiwara Y, Nagano H, Kobayashi S, Sakai D, Hatano E, Kanai M, Nakamori S, Miyamoto A, Tsuji A, Kaihara	腫瘍・血液内科	Phase I study of adjuvant chemotherapy with gemcitabine plus cisplatin in patients with biliary tract cancer undergoing curative resection without major hepatectomy (KHBO1004)	Cancer Chemother Pharmacol. 2014 Jun; 73(6): 1295- 301
47	Fujiwara Y, Ando Y, Mukohara T, Kiyota N, Chayahara N, Mitsuma A, Inada-Inoue M, Sawaki M, Ilaria R Jr, Kellie	腫瘍・血液内科	A phase I study of tasisulam sodium using an albumin-tailored dose in Japanese patients with advanced solid tumors	Cancer Chemother Pharmacol. 2013 Apr; 71(4): 991-8
48	Nakagawa T, Takeuchi A, Kakiuchi R, Lee T, Yagi M, Awano H, Iijima K, Takeshima Y, Urade Y, Matsuo M	こども急性疾患学	A prostaglandin D2 metabolite is elevated in the urine of Duchenne muscular dystrophy patients and increases further from 8 years old	Clin Chim Acta. 2013 Aug 23; 423: 10-4

小計:7

49	Hartomo TB, Kozaki A, Hasegawa D, Pham TV, Yamamoto N, Saitoh A, Ishida T, Kawasaki K, Kosaka Y, Ohashi H.	こども急性疾患学	Minimal residual disease monitoring in neuroblastoma patients based on the expression of a set of real-time RT-PCR markers in tumor-initiating cells	Oncol Rep. 2013 Apr; 29(4): 1629-36
50	Yamamoto T, Sato H, Lai PS, Nurputra DK, Harahap NI, Morikawa S, Nishimura N, Kurashige T, Ohshita T, Nakajima H.	こども急性疾患学	Intragenic mutations in SMN1 may contribute more significantly to clinical severity than SMN2 copy numbers in some spinal muscular atrophy (SMA) patients	Brain Dev. 2013 Dec 17
51	Yamamoto N, Nishimura N, Takeuchi M, Ito T, Yokozaki H, Hirase S, Kubokawa I, Mori T, Yanai T, Hayakawa A, Takeshima Y.	こども急性疾患学	The emergence of CD20-/CD19- tumor cells after rituximab therapy for Epstein-Barr virus-associated post-transplant lymphoproliferative disorder complicated with hemophagocytic lymphohistiocytosis	Eur J Pediatr. 2013 Oct 30
52	Lee T, Yagi M, Kusunoki N, Nagasaka M, Koda T, Matsuo K, Yokota T, Miwa A, Shibata A, Morioka I, Kodama H, Takeshima Y.	小児科	Standard values for the urine HVA/VMA ratio in neonates as a screen for Menkes disease	Brain Dev. 2014 Feb 17
53	Matsuo K, Morioka I, Oda M, Kobayashi Y, Nakamachi Y, Kawano S, Nagasaka M, Koda T, Yokota T, Morikawa S, Miwa A, Shibata	小児科	Quantitative evaluation of ventricular dilatation using computed tomography in infants with congenital cytomegalovirus infection	Brain Dev. 2014 Jan; 36(1): 10-5
54	Kaito H, Ishimori S, Nozu K, Shima Y, Nakanishi K, Yoshikawa N, Iijima K	小児科	Molecular background of urate transporter genes in patients with exercise-induced acute kidney injury	Am J Nephrol. 2013 ; 38(4): 316-20
55	Koda T, Morioka I, Yokota T, Kurokawa D, Fujita K, Nagasaka M, Matsuo K, Shibata A, Sato I, Kawano S, Yamada H.	小児科学	Postnatal serum concentrations of endogenous free fatty acids in newborns admitted to the neonatal intensive care unit: effects on unbound bilirubin.	Ann Clin Biochem. 2014

小計:7

56	Morioka I, Matsumoto M, Miwa A, Yokota T, Matsuo K, Koda T, Nagasaka M, Shibata A, Fujita K, Yamane M, Yamada H.	小児科学	Dried umbilical cord is a potential material for retrospective diagnosis of intrauterine enterovirus infection.	J Matern Fetal Neonatal Med. 2014
57	Iijima K, Sako M, Oba MS, Ito S, Hataya H, Tanaka R, Ohwada Y, Kamei K, Ishikura K, Yata N, Nozu K, Honda M,	小児科学	Cyclosporine C2 monitoring for the treatment of frequently relapsing nephrotic syndrome in children: a multicenter randomized phase II trial.	Clin J Am Soc Nephrol. 2014; 9(2): 271-278
58	Ohno Y, Nishio M, Koyama H, Yoshikawa T, Matsumoto S, Seki S, Sugimura K	機能・画像診断学	JOURNAL CLUB: Comparison of Assessment of Preoperative Pulmonary Vasculature in Patients With Non-Small Cell Lung Cancer by Non-Contrast- and 4D Contrast-Enhanced 3-T MR Angiography and Contrast-Enhanced 64-MDCT	AJR Am J Roentgenol. 2014 Mar; 202(3): 493-506
59	Matsumoto S, Ohno Y, Aoki T, Yamagata H, Nogami M, Matsumoto K, Yamashita Y, Sugimura K	機能・画像診断学	Computer-aided detection of lung nodules on multidetector CT in concurrent-reader and second-reader modes: A comparative study	Eur J Radiol. 2013 Aug; 82(8): 1332-7
60	Ohno Y, Nishio M, Koyama H, Fujisawa Y, Yoshikawa T, Matsumoto S, Sugimura K	機能・画像診断学	Comparison of quantitatively analyzed dynamic area-detector CT using various mathematic methods with FDG PET/CT in management of solitary pulmonary nodules	AJR Am J Roentgenol. 2013 Jun; 200(6): W593-602
61	Takeuchi S, Abe Y, Yamada T, Kawano S, Hozumi Y, Ito S, Suzuki T, Nishigori C	皮膚科	Case of Hermansky-Pudlak syndrome 1 patient with milder symptoms in Japanese	J Dermatol. 2014 Mar; 41(3): 268-70
62	Fujiwara S, Nagai H, Shimoura N, Oniki S, Yoshimoto T, Nishigori C	皮膚科	Intratumoral CD4+ T Lymphodepletion Sensitizes Poorly Immunogenic Melanomas to Immunotherapy with an OX40 Agonist	J Invest Dermatol. 2014 Jan 27

小計:7

63	Ono R, Masaki T, Takeuchi S, Shimizu A, Tanioka M, Kambe N, Matsue H, Kamide R, Nishigori C	皮膚科	Three school-age cases of xeroderma pigmentosum variant type	Photodermatol Photoimmunol Photomed. 2013 Jun; 29(3): 132-9
64	Kunisada M, Masaki T, Ono R, Morinaga H, Nakano E, Yogi F, Okunishi K, Sugiyama H, Nishigori C	皮膚科	Hydrochlorothiazide Enhances UVA-Induced DNA Damage	Photochem Photobiol. 2013 May-Jun; 89(3): 649-54
65	Kishigami K, Bito T, Fujiwara N, Nishigori C, Hisaoka M, Shimajiri S	皮膚科	Dermatofibrosarcoma protuberans presenting with a subcutaneous mass in a 12-year-old boy	Int J Dermatol. 2013 Dec; 52(12): 1575-7
66	Matsuno N, Kunisada M, Kanki H, Simomura Y, Nishigori C	皮膚科	A case of autosomal recessive woolly hair/hypotrichosis with alternation in severity: deterioration and improvement with age	Case Rep Dermatol. 2013 Dec 7; 5(3): 363-7
67	Bito T, Nishikawa R, Hatakeyama M, Kikusawa A, Kanki H, Nagai H, Sarayama Y, Ikeda T, Yoshizaki H, Seto H, Adachi	皮膚科	Influence of neutralizing antibodies to adalimumab and infliximab on the treatment of psoriasis	Br J Dermatol. 2013 Dec 16
68	Omori M, Bito T, Nishigori C	皮膚科	Acquired tufted angioma in pregnancy showing expression of estrogen and progesterone receptors	Eur J Dermatol. 2013 Nov-Dec; 23(6): 898-9
69	Sakaguchi M, Bito T, Oda Y, Kikusawa A, Nishigori C, Munetsugu T, Yokozeki H, Itotani Y, Niguma T, Tsuruta D,	皮膚科	Three cases of linear IgA/IgG bullous dermatosis showing IgA and IgG reactivity with multiple antigens, particularly laminin-332	JAMA Dermatol. 2013 Nov; 149(11): 1308-13

小計:7

70	Washio K, Fukunaga A, Terai M, Hitomi K, Yamanishi K, Nishigori C	皮膚科	Hypohidrosis Plays a Crucial Role in the Vicious Circle of Bathing Suit Ichthyosis: A Case with Summer Exacerbation	Acta Derm Venereol. 2013 Oct 24
71	Fukumoto T, Tominaga M, Kido M, Takebe A, Tanaka M, Kuramitsu K, Matsumoto I, Ajiki T, Ku Y	肝胆膵外科	Long-term outcomes and prognostic factors with reductive hepatectomy and sequential percutaneous isolated hepatic perfusion for multiple bilobar hepatocellular carcinoma	Ann Surg Oncol. 2014 Mar; 21(3): 971-8
72	Urade T, Fukumoto T, Tanaka M, Kido M, Takebe A, Kuramitsu K, Chuma M, Matsumoto I, Ajiki T, Ku Y	肝胆膵外科	Contrast-enhanced intraoperative ultrasonic cholangiography for real-time biliary navigation in hepatobiliary surgery	J Am Coll Surg. 2014 Feb; 218(2): e43-50
73	Ajiki T, Fukumoto T, Ueno K, Okazaki T, Matsumoto I, Ku Y	肝胆膵外科	Three-dimensional computed tomographic cholangiography as a novel diagnostic tool for evaluation of bile duct invasion of perihilar cholangiocarcinoma	Hepatogastroenterology. 2013 Nov-Dec; 60(128): 1833-8
74	Sumi Y, Dhumane PW, Komeda K, Dallemagne B, Kuroda D, Marescaux J	食道胃腸外科	Learning curves in expert and non-expert laparoscopic surgeons for robotic suturing with the da Vinci Surgical System	J Robot Surg. 2013 ; 7(1): 29-34
75	Okada K, Omura A, Kano H, Nakai H, Miyahara S, Minami H, Okita Y	心臓血管外科	Outcome of elective total aortic arch replacement in patients with non-dialysis-dependent renal insufficiency stratified by estimated glomerular filtration rate	J Thorac Cardiovasc Surg. 2014 Mar; 147(3): 966-972
76	Tanaka A, Sakamoto T, Okada K, Okita Y	心臓血管外科	Vegetation attached to the elephant trunk	Eur J Cardiothorac Surg. 2013 Sep; 44(3): 565-6

小計:7

77	Miyahara S, Omura A, Sakamoto T, Nomura Y, Inoue T, Minami H, Okada K, Okita Y	心臟血管外科	Impact of postoperative cusp configuration on midterm durability after aortic root reimplantation	J Heart Valve Dis. 2013 Jul; 22(4): 509-16
78	Munakata H, Yamanaka K, Okada K, Okita Y	心臟血管外科	Successful surgical treatment of aorto-esophageal fistula after emergency thoracic endovascular aortic repair: aggressive débridement including esophageal resection and extended aortic replacement	J Thorac Cardiovasc Surg. 2013 Jul; 146(1): 235-7
79	Miyahara S, Nomura Y, Shirasaka T, Taketoshi H, Yamanaka K, Omura A, Sakamoto T, Inoue T, Minami H, Okada K,	心臟血管外科	Early and midterm outcomes of open surgical correction after thoracic endovascular aortic repair	Ann Thorac Surg. 2013 May; 95(5): 1584-90
80	Okada K, Omura A, Kano H, Inoue T, Oka T, Minami H, Okita Y	心臟血管外科	Effect of atherothrombotic aorta on outcomes of total aortic arch replacement	J Thorac Cardiovasc Surg. 2013 Apr; 145(4): 984-91
81	Okada K, Shirasaka T, Kano H, Okita Y	心臟血管外科	Mitral valve repair in active infective endocarditis with cerebral infarction	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2013 Apr; 21(2): 215-7
82	Morimoto N, Okada K, Okita Y	心臟血管外科	The model for end-stage liver disease (MELD) predicts early and late outcomes of cardiovascular operations in patients with liver cirrhosis	Ann Thorac Surg. 2013 Nov; 96(5): 1672-8
83	Tanaka A, Sakamoto T, Matsumori M, Imanishi T, Nakamura T, Okada K, Okita Y.	心臟血管外科	A cure with successful staged treatment of aorto-esophageal fistula.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2013

小計:7

84	Okita Y	心臓血管外科	Total arch replacement using antegrade cerebral perfusion for distal aortic arch aneurysm.	Ann Cardiothorac Surg. 2013; 2: 367
85	Bao W, Morimoto K, Hasegawa T, Sasaki N, Yamashita T, Hirata K, Okita Y, Okada K.	心臓血管外科	Orally administered dipeptidyl peptidase-4 inhibitor (alogliptin) prevents abdominal aortic aneurysm formation through an antioxidant effect in rats.	J Vasc Surg. 2013
86	Okita Y, Okada K, Omura A, Kano H, Minami H, Inoue T, Miyahara S.	心臓血管外科	Total arch replacement using antegrade cerebral perfusion	J Thorac Cardiovasc Surg. 2013; 145: 637
87	Okada K, Okita Y.	心臓血管外科	Surgical treatment for aortic periannular abscess/pseudoaneurysm caused by infective endocarditis.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2013; 61: 175-81
88	Okita Y, Yamanaka K, Okada K, Matsumori M, Inoue T, Fukase K, Sakamoto T, Miyahara S, Shirasaka T, Izawa N, Ohara	心臓血管外科	Strategies for the treatment of aorto-oesophageal fistula.	Eur J Cardiothorac Surg. 2014
89	Tane S, Ohno Y, Hokka D, Ogawa H, Tauchi S, Nishio W, Yoshimura M, Okita Y, Maniwa Y	呼吸器外科	The efficacy of 320-detector row CT for Assessment of Preoperative Pulmonary Vasculature of Candidates for Pulmonary Segmentectomy	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2013 Jul; 17(suppl 1): S1-S62
90	Tane S, Maniwa Y, Hokka D, Tauchi S, Nishio W, Okita Y, Yoshimura M	呼吸器外科	The role of Necl-5 in the invasive activity of lung adenocarcinoma	Exp Mol Pathol. 2013 Apr; 94(2): 330-5

小計:7

91	Tane S, Ohno Y, Hokka D, Ogawa H, Tauchi S, Nishio W, Yoshimura M, Okita Y, Maniwa Y	呼吸器外科	The efficacy of 320-detector row computed tomography for the assessment of preoperative pulmonary vasculature of candidates for pulmonary segmentectomy	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2013 Dec; 17(6): 974-80
92	Ebina Y, Minematsu T, Sonoyama A, Morioka I, Inoue N, Tairaku S, Nagamata S, Tanimura K, Morizane M, Deguchi M,	産科婦人科	The IgG avidity value for the prediction of congenital cytomegalovirus infection in a prospective cohort study	J Perinat Med. 2014 Mar 25
93	Ebina Y, Watari H, Kaneuchi M, Takeda M, Hosaka M, Kudo M, Yamada H, Sakuragi N	産科婦人科	Impact of FDG PET in optimizing patient selection for cytoreductive surgery in recurrent ovarian cancer	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2014 Mar; 41(3): 446-51
94	Yamasaki Y, Morita H, Miyahara Y, Ebina Y, Okada T, Yamaguchi M, Yamada H	産科婦人科、周産母子センター	The factors associated with the failure of transcatheter pelvic arterial embolization for intractable postpartum hemorrhage	J Perinat Med. 2013 May; 42(3): 359-62
95	Lodhi RS, Nakabayashi K, Suzuki K, Yamada AY, Hazama R, Ebina Y, Yamada H	産科婦人科	Relaxin has anti-apoptotic effects on human trophoblast-derived HTR-8/SV neo cells	Gynecol Endocrinol. 2013 Dec; 29(12): 1051-4
96	Tanaka K, Shigemura K, Muramaki M, Takahashi S, Miyake H, Fujisawa M	腎泌尿器科学	Efficacy of using three-tesla magnetic resonance imaging diagnosis of capsule invasion for decision-making about neurovascular bundle preservation in robotic-assisted radical prostatectomy	Korean J Urol. 2013 Jul; 54(7): 437-41
97	Tanaka K, Shigemura K, Furukawa J, Ishimura T, Muramaki M, Miyake H, Fujisawa M	腎泌尿器科学	Comparison of the transperitoneal and retroperitoneal approach in robot-assisted partial nephrectomy in an initial case series in Japan	J Endourol. 2013 Nov; 27(11): 1384-8

小計:7

98	Inoue S, Hosoda K, Fujita A, Ohno Y, Fujii M, Sugimura K, Kohmura E	脳神経外科	Utility of 320-detector row CT for diagnosis and therapeutic strategy for paraclinoid and intracavernous aneurysms	Acta Neurochir (Wien). 2014 Mar; 156(3): 505-14
99	Ishii T, Mizukawa K, Sasayama T, Sasaki H, Hayashi S, Nakamizo S, Tanaka H, Tanaka K, Hara S, Hirai C, Itoh	脳神経外科	Immunohistochemical and molecular genetics study of a granular cell astrocytoma: A case report of malignant transformation to a glioblastoma	Neuropathology. 2013 Jun; 33(3): 299-305
100	Nakai T, Yamamoto H, Tanaka K, Koyama J, Fujita A, Taniguchi M, Hosoda K, Kohmura E	脳神経外科	Preoperative detection of the facial nerve by high-field magnetic resonance imaging in patients with vestibular schwannoma	Neuroradiology. 2013 May; 55(5): 615-20
101	Nakamizo S, Sasayama T, Shinohara M, Irino Y, Nishiumi S, Nishihara M, Tanaka H, Tanaka K, Mizukawa K, Itoh T,	脳神経外科	GC/MS-based metabolomic analysis of cerebrospinal fluid (CSF) from glioma patients	J Neurooncol. 2013 May; 113(1): 65-74
102	Akutsu N, Aihara H, Sakurai A, Kusaka J, Yasuda M, Kohmura E	脳神経外科	New technique of decompressive skinplasty with artificial dermis for severe brain swelling: technical note	Neurol Med Chir (Tokyo). 2013 ; 53(1): 56-60
103	Kuroda R, Matsumoto T, Niikura T, Kawakami Y, Fukui T, Lee SY, Mifune Y, Kawamata S, Fukushima M, Asahara T,	整形外科	Local transplantation of granulocyte colony stimulating factor-mobilized CD34 cells for patients with femoral and tibial nonunion: pilot clinical trial	Stem Cells Transl Med. 2014 Jan; 3(1): 128-34
104	Hayashi S, Nishiyama T, Fujishiro T, Hashimoto S, Kanzaki N, Nishida K, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	Excessive femoral offset does not affect the range of motion after total hip arthroplasty	Int Orthop. 2013 Jul; 37(7): 1233-7

小計:7

105	Niikura T, Lee SY, Sakai Y, Nishida K, Kuroda R, Kurosaka M	整形外科	Nonunion with breakage of gamma nail and subsequent fracture in the ipsilateral femur	Case Rep Med. 2013 ; 2013: 534570-534570
106	Yonezawa K, Nishiumii S, Kitamoto-Matsuda J, Fujita T, Morimoto K, Yamashita D, Saito M, Otsuki N, Irino Y,	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Serum and tissue metabolomics of head and neck cancer	Cancer Genomics Proteomics. 2013 Sep-Oct; 10(5): 233-8
107	Shibuya Y, Ishida S, Hasegawa T, Kobayashi M, Nibu K, Komori T	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Evaluating the masticatory function after mandibulectomy with colour-changing chewing gum	J Oral Rehabil. 2013 Jul; 40(7): 484-90
108	Adhim Z, Otsuki N, Kitamoto J, Morishita N, Kawabata M, Shirakawa T, Nibu K	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Gene silencing with siRNA targeting E6/E7 as a therapeutic intervention against head and neck cancer-containing HPV16 cell lines	Acta Otolaryngol. 2013 Jul; 133(7): 761-71
109	Morita N, Morimoto K, Yonezawa K, Otsuki N, Nibu K	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Infratemporal fossa metastasis of papillary thyroid cancer	Head Neck. 2013 Apr; 35(4): E119-21
110	Kanda T, Kitajima K, Suenaga Y, Konishi J, Sasaki R, Morimoto K, Saito M, Otsuki N, Nibu K, Sugimura K	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Value of retrospective image fusion of <sup>18</sup> F-FDG PET and MRI for preoperative staging of head and neck cancer: comparison with PET/CT and contrast-enhanced neck MRI	Eur J Radiol. 2013 Nov; 82(11): 2005-10
111	Inokuchi G, Tsutsumi N, Komatsu H, Fujita T, Sawada N, Kumoi K	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Persistent petrosquamosal sinus: underlying cause of otitic hydrocephalus with lateral sinus thrombosis	Int J Pediatr Otorhinolaryngol. 2013 Nov; 77(11): 1908-11

小計:7

112	Kanamori A, Naka M, Akashi A, Fujihara M, Yamada Y, Nakamura M	眼科	Cluster analyses of grid-pattern display in macular parameters using optical coherence tomography for glaucoma diagnosis	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013 Sep 27; 54(9): 6401-8
113	Akashi A, Kanamori A, Nakamura M, Fujihara M, Yamada Y, Negi A	眼科	The ability of macular parameters and circumpapillary retinal nerve fiber layer by three SD-OCT instruments to diagnose highly myopic glaucoma	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013 Sep 5; 54(9): 6025-32
114	Akashi A, Kanamori A, Nakamura M, Fujihara M, Yamada Y, Negi A	眼科	Comparative assessment for the ability of Cirrus, RTVue, and 3D-OCT to diagnose glaucoma	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013 Jul 10; 54(7): 4478-84
115	Kanamori A, Nakamura M, Tomioka M, Kawaka Y, Yamada Y, Negi A	眼科	Structure-function relationship among three types of spectral-domain optical coherent tomography instruments in measuring parapapillary retinal nerve fibre layer thickness	Acta Ophthalmol. 2013 May; 91(3): e196-202
116	Matsumiya W, Kusuhara S, Shimoyama T, Honda S, Tsukahara Y, Negi A	眼科	Predictive value of preoperative optical coherence tomography for visual outcome following macular hole surgery: effects of imaging alignment	Jpn J Ophthalmol. 2013 May; 57(3): 308-15
117	Sakamoto M, Kanamori A, Fujihara M, Yamada Y, Nakamura M, Negi A	眼科	Assessment of IcareONE rebound tonometer for self-measuring intraocular pressure	Acta Ophthalmol. 2013 Apr 16
118	Terashi H, Osawa S, Sakakibara S, Sato M, Kurokawa M, Tahara S	形成外科	Advancement in Early Wound Closure for Venous Leg Ulcers.	J Wound Tech. 2013; 19: 30-31

小計:7

119	Fujii M, Terashi H, Tahara S	形成外科	Efficacy of Magnetic Resonance Imaging in Diagnosing Osteomyelitis in Diabetic Foot Ulcers	J Am Podiatr Med Assoc. 2014; 104(1): 24-29
120	Sakai Y, Hirose T, Tomono A, Kawakami F, Nakai T, Ohbayashi C, Mizowaki T, Tanaka K, Kohmura E, Itoh T	病理診断科	Angiosarcoma arising in schwannoma of cerebellopontine angle and later associating with meningioma in a patient with neurofibromatosis type 2	Brain Tumor Pathol. 2014 Mar 6
121	Sakai Y, Yamasaki T, Kusakabe Y, Kasai D, Kotani Y, Nishimura Y, Itoh T	病理診断科	Large-cell neuroendocrine carcinoma of lung with epidermal growth factor receptor (EGFR) gene mutation and co-expression of adenocarcinoma markers: a case report and review of the literature	Multidiscip Respir Med. 2013 Jul 18; 8(1): 47-47
122	Sakai Y, Nakai T, Ohbayashi C, Imagawa N, Yanagita E, Satake R, Nitta A, Kajimoto K, Sakuma T, Itoh T	病理診断科	Immunohistochemical profiling of ALK fusion gene-positive adenocarcinomas of the lung	Int J Surg Pathol. 2013 Oct; 21(5): 476-82
123	Kanzawa M, Semba S, Hara S, Itoh T, Yokozaki H	病理診断科	WNT5A is a key regulator of the epithelial-mesenchymal transition and cancer stem cell properties in human gastric carcinoma cells	Pathobiology. 2013 ; 80(5): 235-44
124	Hara S, Ichimaru N, Kyo M, Yamaguchi Y, Kojima Y, Takahara S, Itoh T.	病理診断科	Latent mesangial immunoglobulin a deposition in long-term functioning kidney does not correlate with disease progression and may exhibit fluctuating patterns.	Transplant Proc. 2014; 46(1): 124-129
~				

小計:6

計 124

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年の改(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発お

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ○審査申請手順について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年年度中の業務報告(25年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 被験者の保護を最優先し、かつ、大学の社会的信頼を得つつ、臨床研究を適正に推進するために、利益相反が深刻な事態へと発展することの未然防止を目的として、利益相反のマネジメントを適切に実施する。マネジメントの実施のため、臨床研究利益相反マネジメント委員会を設置し、委員会は利益相反に関する重要事項を調査・審議・審査する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年24回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年年度中の業務報告(平成25年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	随時年一回
・ 研修の主な内容 ○臨床研究の全体像、治療開発のための研究形態、研究倫理と被験者保護等について E-learningを受講する。	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年年度中

の業務報告(平成 25 年度実績)において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本院における後期研修プログラムには診療科別専門医育成プログラム、包括的臨床医育成プログラムの2種類があり、初期研修修了者を対象とし、神戸大学及び研修協力病院において専門的な臨床経験を積み、学会認定医や専門医の取得を支援する。また、地域医療に貢献する実地臨床医にも幅広い臨床研修の場を提供することも可能である。

1) 診療科別専門医育成プログラム

- ・ 高度な先進医療を行う神戸大学病院と豊富な症例を有する研修協力病院が共同で提供するプログラムであり、専攻診療科決定者を対象に研修期間を5年とする。
- ・ 各診療科間での交換プログラムを充実させ、多様な研修を可能とする。
- ・ 関連する他の診療科での研修やカンファレンスへの参加も可能とする。
- ・ 学会認定の専門医取得を修了目標とする。
- ・ 医員やレジデントの職名のまま「社会人特別選抜」により大学院に入学し、専門医と共に学位を取得することも可能であり、また、研究生制度を利用して学位を取得することも可能である。

2) 包括的臨床医育成プログラム

- ・ 専攻診療科未決定者を対象にしたプログラムで、各診療科を柔軟に組み合わせた研修が可能である。
- ・ 神戸大学病院に在籍し、専門領域の診療科選択までの期間を支援する。

2 研修の実績

研修医の人数	140人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
金澤 健司	総合内科	講師	26年	
平田 健一	循環器内科	教授	30年	
西 慎一	腎臓内科	教授	31年	
西村 義博	呼吸器内科	特命教授	31年	
森信 暁雄	膠原病リウマチ内科	准教授	26年	
東 健	消化器内科	教授	33年	
小川 渉	糖尿病・内分泌内科	教授	30年	
戸田 達史	神経内科	准教授	29年	
南 博信	腫瘍・血液内科	教授	24年	
南 博信	血液内科	教授	24年	
岩田 健太郎	感染症内科	教授	17年	
杉本 幸司	放射線科	特命教授	26年	
佐々木 良平	放射線腫瘍科	特命教授	21年	
飯島 一誠	小児科	教授	32年	
錦織 千佳子	皮膚科	教授	34年	
曾良 一郎	精神科神経科	教授	32年	
木澤 義之	緩和・支持治療科	特命教授	23年	
掛地 吉弘	食道胃腸外科	教授	27年	

具 英成	肝胆膵外科	教授	37年
田中 優子	乳腺内分泌外科	特命准教授	16年
大北 裕	心臓血管外科	教授	36年
眞庭 謙昌	呼吸器外科	教授	24年
大北 裕	小児外科	教授	36年
黒坂 昌弘	整形外科	教授	37年
甲村 英二	脳神経外科	教授	35年
中村 誠	眼科	教授	25年
丹生 健一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	28年
藤澤 正人	泌尿器科	教授	30年
山田 秀人	産科婦人科	教授	30年
寺師 浩人	形成外科	教授	28年
一瀬 晃洋	美容外科	特命准教授	21年
溝渕 知司	麻酔科	教授	29年
西山 隆	救命救急科	特命教授	26年
伊藤 智雄	病理診断科	教授	22年
酒井 良忠	リハビリテーション科	特命教授	18年
古森 孝英	歯科口腔外科	教授	35年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・医療技術部コメディカルセミナー 主な内容：コメディカル間で、それぞれの職種で最先端の技術を紹介、解説してチーム医療の推進を図る。 研修の期間・実施回数： 2時間 2回/年 研修の参加者：80名（院外もオープン）</li> <li>・いむーの(免疫組織データベース)技術セミナー 主な内容：免疫組織化学技術の基礎と応用を講義して、免疫染色標本の染色性の評価について鏡検実習を行う 研修の期間・実施回数： 終日（6時間） 1回/年 研修の参加者：50名（院外もオープン）</li> <li>・臨床検査技術研修 主な内容：マイクロピペットの利用方法等の基礎的な内容から、腫瘍マーカーの理論と測定方法、筋ジストロフィーの病態、B型肝炎のガイドラインなどその時々最新の話題について 研修の期間・実施回数： 2時間程度 12回/年（院外にもオープン）</li> <li>・ME機器に関する研修 主な内容：輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器等のME機器使用方法の研修 研修の期間・実施回：2013年4月1日～3月31日 13回 研修の参加人数：182名</li></ul>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・医療技術部初任者研修 主な内容：新たに職場に採用された医療技術職員にたいして、病院で働くための基本的な理論や技術を身につける。 研修の期間・実施回数： 1時間 5回</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li> <li>・研修の期間・実施回数</li></ul>

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 藤澤 正人
管理担当者氏名	薬剤部長 平井 みどり 総務課長 山腰 俊昭 管理課長 足立 裕 学務課長 永野 康彦 研究支援課長 木村 功 医事課長 石坂 雅志

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		診療録センター (エックス線写真→各診療科、処方せん→薬剤部、病院日誌→総務課)	病歴資料については診療録センターで集中管理を行い、エックス線写真、処方せん、病院日誌は当該担当部署において、保管している。 診療録の院外持ち出しは原則禁止としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課	
	高度の医療の研修の実績	学務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部		
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医事課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医事課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	医事課
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
	各号及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医事課・薬剤部
	第二十三條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課・薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課・薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課・薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	管理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理課
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	<input checked="" type="radio"/> 2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 藤澤 正人		
閲覧担当者氏名	薬剤部長 平井 みどり	総務課長 山腰 俊昭	
	管理課長 足立 裕	学務課長 永野 康彦	
	研究支援課長 木村 功	医事課長 石坂 雅志	
閲覧の求めに応じる場所	応接室		
閲覧の手続の概要 総務課に申出を行い、応接室にて閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 医療安全の考え方 2. 医療事故発生時の対応 3. 医療事故等発生時の関連機関連絡先 4. インシデント報告システム 5. 医療安全に関する内規集	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： ・ 病院における医療安全管理対策の策定及び変更 ・ 医療安全管理のための研修及び教育計画の策定 ・ 重要なインシデントに関する分析・改善策の検討・対応の決定について ・ その他、医療安全に関する全般事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 11 回
・ 研修の主な内容： ①医療安全管理に関する職員必修講習会（感染対策、医療機器関係含む 年2回）②研修医、看護師、技官、外部委託職員に対する採用時研修③医学部学生に対する医療安全管理に関する卒前教育（1年生対象、4年生対象）④看護部対象講習（新規採用者対象、身体拘束について）⑤その他、医療安全に関連する講習会4回（「ノンテクニカルスキル」「Team STEPPS」「弁護士の立場から見た医療安全」「尿道カテーテル留置」）	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： イ. 医療スタッフポケットマニュアルの配付、ロ. 薬剤情報検索システム ハ. 持参薬の病棟薬剤師による処方チェックシステム、 ニ. 是正処置実施計画書・報告書の作成、ホ. 院内巡回の定期化 ヘ. 医薬品及び医療機器安全管理委員会を整備、ト. 医療安全組織の改組 チ. チームによるインシデント報告、リ. 手術安全チェックリストの導入及び他部門の拡大 ス. CV穿刺室の整備 ル. 医療の質・安全マニージャ全体会議の定例化	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（4名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（7名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任（4）名 兼任（4）名 ・ 活動の主な内容： （1）インシデント審議依頼やヒヤリ・ハット事例に関する情報の収集 （2）収集された情報とその分析に基づき、病院内で具体的な対策の企画、実施 （3）医療現場への的確な情報の提供 （4）医療安全管理マニュアルの作成 （5）医療事故防止の教育・学習の展開等の任務を行う （6）医療相談の報告に基づく指導	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的考え方、院内感染対策のための委員会・組織、院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針、院内感染発生時の対応（報告体制含む）に関する基本方針、患者・家族等に対する指導およびインフォームドコンセントと当該指針の閲覧に関する基本方針、その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針（サーベイランス・院内ラウンド、抗菌薬適正指導の推進、特定抗菌薬届出の監視、コンサルテーション・職業感染対策・マニュアルの編集・院内環境の整備）、感染制御の地域連携</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策委員会…年12回(月1回実施) 感染制御部会…年12回(月1回実施)
<p>・ 活動の主な内容： MRSA及び耐性菌の検出報告、アウトブレイク疑い対応、院内ラウンド、医療関連サーベイランス、リンクナース会および感染制御部連絡会議開催、職業感染予防対策（結核曝露対策、ワクチン接種、針刺し・切創予防など）、院内感染予防マニュアルの改訂、院内研修（必修講習会、ICP講習会など）の計画・実施。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 17 回
<p>・ 研修の主な内容： ・ 新規採用者全員対象に、院内感染防止対策の基本と針刺し予防の講義およびデモンストレーション。 ・ 全職種に対して、職員必修講習会として年2回実施。医療安全部門と共に時期に応じて院内感染対策上重要なポイントおよびトピックスや事例について講演。 ・ 全職員のうち希望者に対して、院内感染防止対策におけるベーシックな知識を得てもらいように、院内認定ICP育成講習会ベーシックを年4回開催。 ・ 職種別（医師、看護師、診療技術部門、委託業者等）対象に、年2～14回、各職種に応じた現場で遵守すべき感染対策の知識や技術について講義やトレーニング。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無 ) ・ 感染症法に決められている届け出が必要な感染症の報告体制および、感染対策上重要な感染症に対する感染制御部を中心とした監視体制のマニュアル化。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 感染対策実施状況を確認するために、定期（週1回）およびオンタイムに院内ラウンドを実施し、必要時指導。 ・ 抗菌薬使用状況を継続的に調査し、毎週開催の抗菌薬適正使用プロジェクトで抗菌薬の使用法を検討し、随時介入指導。 ・ 現場医療従事者からのコンサルテーションをうけて、随時対応。 ・ 侵襲処置・医療器具関連感染、血液・体液曝露のサーベイランスを実施。 ・ 職員、学生のワクチン接種プログラム(B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、ムンプス)を計画・実施。 ・ 新興・再興感染症の対応を協議し、院内全体に感染防止対策を周知徹底する。 ・ 改築、改修時の院内のファシリティーマネージメントを行う。 ・ 医学科学生（BSL前）及び保健学科学生の実習前に、感染防止対策の講義および手指衛生や個人防護用具の演習を実施。</p>

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： ポリファーマシーについて	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 医薬品の採用・購入、調剤、服薬指導、安全使用に関する内容、ハイリスク薬に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ● 重大な事例は、医療の質・安全管理部ミーティング、医薬品安全管理委員会にて、報告や改善策の検討を行っている。 ● 必要な情報は、外来、病棟等の各部署に紙媒体で配布すると共に、病院情報システムへの掲載を行っている。	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 13 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容： 人工呼吸器、除細動器、血液浄化装置、補助循環装置、人工心肺装置、保育器についての操作方法及び管理上の注意点とトラブルシューティングについて</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>計画の策定 (有・無)</li><li>保守点検の主な内容： 院内の臨床工学技士による、定期点検（定期消耗品交換含む）と、製造販売メーカー実施における点検報告書の管理</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</li><li>その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器に関する安全情報の提供と不具合報告の連絡体制の強化 医療情報端末（電子カルテ）を用いての安全情報の共有</li></ul>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名：日本医療機能評価機構 評価を受けた時期：平成21年12月（認定期間 平成22年3月28日～平成27年3月27日）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 方法：病院ホームページに掲載 内容：各種治療実績・成績、医療機能情報提供、先進的な医療について	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・呼吸器センター（呼吸器内科、呼吸器外科等）、腫瘍センター（腫瘍・血液内科、緩和支援治療科等）、ICUにて複数の診療科が連携し対応。	